

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

2024年(令和6年)

# 建設工業新聞

3月5日(火)

第20809号

協定書を交わす青柳会長(左)と  
中川社長



群馬県建設業協会(青柳剛会長)と群馬テレビ(前橋市、中川伸一郎社長)が、災害時の情報共有で提携した。群馬建設協会と、行政機関の災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」の枠組みに群馬テレビが参画。

## 群馬建協、群馬テレビ

### 災害時の情報発信で協定

災害速報ニュースなどで情報をリアルタイムに活用してもらう。

4日に前橋市の群馬建設会館で「災害に関する情報発信等に係る協定」を締結。青柳会長と中川社長が協定書を取り交わした。

ぐんけん見張るくんは、会員企業が収集した災害情報を行政機関などと共有することにも、X(旧ツイッター)で一般に発信している。群馬テレビはこれらの情報を取得し、番組での速報や平時の防災啓発などに役立つ。

能登半島地震を受け「災害時の情報は素早く、多ければ多いほどいいと感じた」と青柳会長。

### 「ぐんけん見張るくん」生かし速報ニュース

群馬建協が掲げるデルタモデルに群馬テレビが参画する



「(ぐんけん見張るくん)の動点カメラ情報を地元テレビ局に使うのも一つことで、災害のセミプロである建設業の強みを生かすことができる」と説明。「SNS(インターネット交流

サイト)活用とマスコミ報道の融合が重要だ」と協定の意義を話した。

群馬建協は、建設業が地域を守るために「災害対応組織力」を維持するためのデルタモデル」を掲げている。情報収集、訓練、人・もの・資機材の充実の三つの輪を回しながら非常時を想定した組織力の強化に今後も努めていく。2019年東日本台風では、県内の被害の情報伝達が遅れたことがあった。中川社長は「平時の啓発から災害復旧まで、多方面にわたる情報発信に厚みを持たせたい」と協定の効果に期待を寄せた。

青柳会長は石川・富山・新潟の各建設業協会首脳と懇談した経緯を踏まえ、「災害に強い群馬県にさらに踏み出していく」と力を込めて決意を示した。

# 群馬テレビと協定締結

## 群馬建協

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は4日、災害時の情報発信を強化するため群馬テレビと協定を締結した。能登半



協定を締結した中川社長（右）と青柳会長

島地震を契機に、災害対応組織力を強化するのが狙い。群馬建協が運営する「災害情報共有システム・ぐんけん見張りくん」に群馬テレビが参画

すること、災害時にいち早く期待している」と力を込め

## 災害時の情報発信を強化

く現場に駆け付ける地域建設業者が取得した画像や動画を共有し、テレビで発信する。

同日、前橋市の群馬建設会館で青柳会長と群馬テレビの中川伸一郎社長が協定書に署名した。

青柳会長は、「1000年に伝えることができる」と協

に一度と言われる地震災害を目のあたりにして、地域を建設業として、災害時の情報発信をさらに強化していく必要性を感じた」と協定締結に至る経緯を説明。「協定により、より掘り下げられた災害時の情報発信につながることを期待している」と力を込め

定の意義を強調した。災害情報共有システムは、災害時や降雪時などに現場の作業員が撮影した画像や動画情報などを、協会員や行政が共有すると同時に、X（旧ツイッター）を通じて広く発信する仕組み。協定後、群馬テレビはシステムで共有している画像や動画情報を取得することができる。災害速報の配信に生かすほか、平時には災害に関する啓発番組などで活用する見通し。

中川社長は、「能登半島地震以降、群馬県内で災害が起きたら何ができるかを考えてきた。建設業の皆さんは民間では最も早く現場入りするため、よりリアルな情報を県民に伝えることができる」と協

定の意義を強調した。災害情報共有システムは、災害時や降雪時などに現場の作業員が撮影した画像や動画情報などを、協会員や行政が共有すると同時に、X（旧ツイッター）を通じて広く発信する仕組み。協定後、群馬テレビはシステムで共有している画像や動画情報を取得することができる。災害速報の配信に生かすほか、平時には災害に関する啓発番組などで活用する見通し。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。

2019年東日本台風では、外部からのアクセスが困難となっていた嬬恋村の情報を、地域建設業者がいち早く発信し、被災状況把握の一翼を担った。



# 「災害情報」 迅速に発信

県建設業協会と定  
群馬テレビ協定

非常時に正確な情報を迅速に発信するため、県建設業協会（前橋市元総社町、青柳剛会長）と群馬テレビ（同市上小出町、中川伸一郎社長）は4日、災害時の情報共有に関する協定を結んだ。会員数約8千人の同



協定を締結した青柳会長（左）と中川社長

協会の災害情報共有システムを同社が利用可能となり、現場から届くリアルタイムの動画や写真などをテレビで伝え、県民の安全確保につなげる。

同協会は2007年の台風9号を受け、08年に同システムを創設。本県が記録的大雪に見舞われた14年に道路の除雪状況などをX（旧ツイッター）で発信したところ反響が大きかったためシステムを「ぐんけん見張るくん」に一新した。これまで国や県、市町村のみとシステムを共有し

ていたが、能登半島地震で発生から数日が経過しても情報が錯綜し被害を把握しきれない状況が生じた。正確な情報を迅速に伝えたい同社と意思が一致し、協定締結に至った。

同日の締結式で、青柳会長は「業界、行政、マスコミが一体となって掘り下げられた情報発信につながる」と期待。中川社長は「災害報道、情報発信に厚みをもたせることができ、県民生活に貢献できる」と述べた。（佐藤秀樹）

群建協

# 群テレと協定締結

## リアルタイム動画など共有

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は4日、群馬テレビ（中川伸一郎社長）と「災害に関する情報発信等に係る協定」の締結式を前橋市内の建設会館で行った。群建協の会員企業が実施する災害応急対策などのリアルタイム動画や画像を共有し、群馬テレビが放送する災害情報に活用することとなる。

群建協は災害情報を発信する際に災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」を活用している。馬テレビが協会員や行政

協会員が画像など災害情報と同等のシステム閲覧権限を保持するため、協会

員が送信した情報へアクセスすることが可能となる。得られた情報を番組

内で速報として発信する

以上で視聴者へ短時間で多くの情報が伝えられることとなる。協会では災害対応組織力を維持していくため「情報」「訓練」「体制」の3つをデルタモデルとして掲げており、これを踏まえ青柳会長は「今回は『情報』の部分。災害時の情報は素早く多ければ多い方がよい。行政、業界、マスコミが一体と

なって、より掘り下げた災害時の情報発信ができるのでは」とコメントした。また「建設業は災害のセミプロで、協会員の情報は動点カメラみたいなもの。これをマスコミに提供するの非常に重要」とし、建設業界としての役割を果たしたいと訴えた。

中川社長は「協会員の皆さまは、災害時に民間でも早く現場入りする方々。皆さまの情報は、われわれ報道だけでは得られない詳細でリアルなものが多い」とし「迅速かつリアルな情報を県民に伝えられる」と話した。加えて「今回の協定により災害報道、情報発信に厚みが出て、県民生活に大きく貢献できる」と語った。

災害に関する情報発信等に係る協定締結式



新たな枠組みが誕生